

どがなかな 大田市です!!



【写真上】 記念楯の贈呈式の様子。「田舎暮らしの本」編集長の柳順一氏（左）と竹腰創一市長（右）。

【写真右】 総合第1位の楯



(株)宝島社「田舎暮らしの本」

日本「住みたい田舎」 ベストランキング

大田市が総合第1位を獲得！

第3回 日本「住みたい田舎」ベストランキング

大田市が総合第1位を受賞

(株)宝島社が発行している月刊誌「田舎暮らしの本」の中で実施されている『日本「住みたい田舎」ベストランキング』で大田市が総合第1位を獲得しました。それにともない、平成26年12月には「田舎暮らしの本」編集部編集長の柳順一氏が市役所を訪問、市長に楯が贈呈されました。

▶「田舎暮らしの本(2月号)」でベストランキングが発表されました。



このランキングは平成24年度から実施されており、今回が3回目となります。今年度は、全国約500の自治体に対し、「移住するうえで魅力的な田舎」に関する項目(移住者歓迎度、移住者支援制度の充実度、子育てのしやすさ、災害リスクなど10項目)を同社が調査(295自治体が回答)し、大田市が総合第1位となったものです。

また、部門別のランキングでも子育て世代にぴったりの田舎部門第2位、シニア世代が暮らしやすい田舎部門第1位、古きよき日本の田舎部門第3位、チャレンジしたい若者におすすめの田舎部門第4位となりました。

「田舎暮らしの本」を読んで

大阪市から一ターンの

武田明美さん

武田さんと兄の宇留島さんは「田舎暮らしの本」に、市の空き家情報に掲載されたことがきっかけで、大田市に興味を持ち、現在の住居を購入、平成25年4月に移住しました。

60歳を契機に田舎暮らしを計画していたこともあり、築100年超の古民家を改修し田舎ツーリズムの宿に登録(「薨(いらか)のギャラリ馬路」を開設しました。

大阪で「お好み焼屋」を営んでいたことから、地域の要望もあって飲食も提供しています。

移住後、市が開催している「農援塾」を受講。宿で提供される野菜は全て自家製というこだわりぶりです。



▶古民家を改修した「薨のギャラリ馬路」は地域の憩いの場となっています。



▲武田さん(右)と兄の宇留島さん(左)。

市内外の利用者との交流活動を通じ、大田市の情報発信の拠点ともなっている施設です。

大田市の魅力に心奪われて

大田市への移住の理由を聞くと、「人と場所に惹かれたから」と迷うことなく答える武田さん。移住の前に大田市を訪れた時に、町を歩く子ども連れの親子や高齢者まで、見知らぬ自分にあいさつをしてくれることが、驚きだったそうです。

大田市の魅力に取りつかれた武田さんは、今後について「この地域の人の結びつきを強くするため、催し物などをして地域を盛り上げていきたい」と熱く語っています。



日本の拠点を大田へ

画家 寺田 琳さん

市外出身の寺田さんは、19歳で日本画を始め、2000年にドイツへ渡り、現在は抽象画を中心に活動している画家です。

日本での活動拠点を探していた寺田さんは、知人の紹介で大田市の運営する「空き家バンク制度」を利用しました。そこで出会ったのが波根町にある製菓工場として使われていた空き家です。

昨年8月、自ら空き家を改築し、「ミュージアム竹下成果工場」が開館しました。ここでは、絵画の展覧会や写真展、音楽イベントなど様々な催しが行われています。寺田さん



▲開館と同時に開かれたアート・イベントの様子。国内外から約300点の作品の出展がありました。

は、ここが芸術文化を発信する場となることを目指しています。開館と同時に行われたアート・イベントの優秀アーティスト23名の作品は、ベルリンにある寺田さんのギャラリーに展示されました。また、このイベントには、海外からの出展もあり、ミュージアムは、芸術文化の発信場所となっています。

何もない所が良い

「大田市は何もない所が良い」と語る寺田さん。芸術家にとって、決まった美しさで固まっている土地よりも、大田市のような何もないシンプルな土地というのは、のびのびと自由な表現ができるそうです。実際に、ミュージアム竹下成果工場は、建物全体が寺田さんの一つの作品となっており、寺田さんの思い描くとおりの作品となっています。

今後も、ミュージアム竹下成果工場から寺田さんの思い描く芸術が世界へ発信されていくでしょう。

山村留学の活動が決め手に

山田一夫さん一家

平成21年4月に千葉県から大田市山口町へ移住（イターン）した山田さん一家。

田舎への移住計画を進めるなかで、島根県が主催する定住相談会へ参加しました。職員の対応の良さに島根県への興味が湧き、島根県全域を見て回ったそうです。

移住の大きな決め手となったのは、子どもが安心して遊べる環境があり、山村留学センターがある大田市でした。



▶右から山田一夫さん、長女の桂香さん、妻のみどりさん、二女の千里さん。



▲雪の中で育つ自然薯（じねんじょ）の生育状態を確認する山田さん。

田舎には大切な

エネルギー源がある

この山村留学センターの活動の一つに農家での生活や体験を通して、昔の伝統や智慧を学ぶことが、子どもへの刺激になるし、子どもにとって良い環境がここにあったそうです。

現在は、自営農業で一年中大忙しの山田さん。「自然がいっぱいの三瓶山の麓で作物を生産する農業は楽しい」と、いつも笑顔で、雪の中でも元氣いっぱいです。

妻のみどりさんは、「田舎という環境に価値があり、人が生きて行くうえで大切なエネルギー源がある」と夫の一夫さんを支えながら、子育てに奮闘中です。

また、山田さん一家の住まいのある山口町の地域の皆さんが元気で、一緒に活動しても元気を貰い、やる気になるらしく、「田舎暮らしの選択は間違いないかった」と日々の暮らしを満喫しています。

本物の森ガールを目指して

「仕事は、楽しい！」と明るく話すのは、広島県出身の女性、新谷悠さん。大学院を卒業後、平成25年4月に大田市森林組合に就職しました。

「男性の職場」というイメージの強い林業の世界へ、足を踏み入れた力強い女性を紹介します。



▲チェーンソーを巧みに使って木を伐採する新谷さん。

やりたい事を仕事に

新谷さんは、大学院で植物病理学を学び、稲の病気や木の病気などについて研究をしていました。「就職するなら樹木に関わる職に就きたい」と考え、森林組合の募集を知り、すぐに応募したそうです。

「男性の職場」というイメージの強い林業の仕事に就くことに抵抗はなかったそうです。それよりも、自分の興味があること、やりたいことを仕事にすることの方が重要だと新谷さんは語ります。



新谷 悠さん (26歳)

広島県出身。大学院を卒業後、大田市森林組合に就職。

就職後、国の制度を利用し研修などの支援を受けています。研修では、重機やチェーンソーなどの仕事に必要な専門的な技術を学び、実際の現場に出て鍛えあげられています。

辛い時こそ笑顔で

「笑つとかんとやれん。体力的に辛い時でも、笑っていれば辛くはない」と明るく話す新谷さん。

仕事は、実際に現場に出て、木の伐採などを行っています。そのため、体力的に辛いことが多い様子ですが笑っていれば、気持ちがあくじけることは無いと語ります。

その明るさは、自他ともに



(写真) 重機を操作する新谷さん。女性が操作する方が上手いと職場の先輩は言います。

職場に新しい風を!

認めるもので、職場の人も「根が明るいのですぐに馴染んでいた」とのこと。

大田市森林組合参事の林達夫さんは「新谷さんには、職場に新しい風を吹かしてほしい。今までは、島根県内の人の採用を続けてきたが、新谷さんのような県外出身者の採用をすることで、今までにない、新しい発想や要素などを取り入れてほしい」と語り、新谷さんに期待を込めています。

酪農家に憧れて！

大田市へIターンをした鳥根県雲南市出身の内田早紀さんは、温泉津町にある吉浦牧場へ平成26年4月から働き始めました。酪農家に憧れて牧場へ就職した内田さんを紹介します。

内田さんが酪農の仕事に興味を持ったのは、中学生の頃。テレビで放送された北海道の広い牧草地で行われる酪農の仕事をみて、この仕事に憧れるようになったとのこと。中学、高校での職場体験は、牧場に体験をする程、子どもの頃から、牧場での仕事を夢みていたようです。

大学では、農学部へ進学し、酪農に必要な知識や技術を学び、家畜人工授精師



(写真) 牧場での仕事は、力仕事が多い。また、重機の運転が必要な場面もあります。

きっかけは北海道

毎日が勉強！

「吉浦牧場は、大きくて驚いた」と話す内田さん。吉浦牧場の約1200頭の牛の数に驚きを隠せなかったそうです。

現在の仕事は、牛舎の掃除や搾乳などの仕事を任

酪農の基盤は子牛

「子牛の世話の担当者が休みの時は、世話を任されることがあり、病気などに気がつけることが大変。でも、酪農の基盤は、子牛であり、上手く管理し子牛を育てることが酪農を支えて

◀吉浦牧場。約1200頭の牛を飼育する中国地方最大級のメガファーム。年間で約800頭の牛が誕生する。



内田早紀さん (23歳)

鳥根県雲南市出身。宮崎の大学を卒業後、大田市温泉津町の吉浦牧場へ就職。

牧場の寮で暮らし、休日は、実家のある雲南にもどり、友人たちと遊ぶとのこと。中学・高校・大学と柔道部に所属していたという意外な一面もあります。

「吉浦牧場は、大きくて驚いた」と話す内田さん。吉浦牧場の約1200頭の牛の数に驚きを隠せなかったそうです。

現在の仕事は、牛舎の掃除や搾乳などの仕事を任

「子牛の世話の担当者が休みの時は、世話を任されることがあり、病気などに気がつけることが大変。でも、酪農の基盤は、子牛であり、上手く管理し子牛を育てることが酪農を支えて

今後は、家畜人工授精師の資格を活かし、人工授精の仕事など子牛に関わる仕事をしたいと話す内田さん、今年の4月から子牛の哺乳の担当を任されるとのこと。「少しプレッシャーを感じているけど、自分の育てた子牛が元気に成長することを目指して頑張りたい」とこれからの目標を語りました。

52年の積み重ねが生み出す 匠の技術と信頼

宮大工 森下孝明 (67歳)



最初は褒章のすごさが
わからなかった

平成26年11月、秋の褒章受章者が発表されました。そのなかの「業務に精励し衆民の模範たるべき者」に授与される『黄綬褒章』を宮大工・森下孝明さんが受章しました。

森下さんは、昭和37年に地元粗式町の石原建築に内弟子として入り、昭和59年に独立し、平成5年に有限会社森下コンストラクターを創立。これまで様々な技術を会得し、日本各地の神社仏閣の建築や補修に全霊を注いでいます。今

回、栄えある黄綬褒章の受章に対して本人は、「どういう褒章なのか知らなかったから、まわりからすごいことだと言われてもすごさを実感できなかった」とのこと。森下さんにとっては当然のことを日々続けてきただけなので、突然のことに喜びより驚きが勝っていたようです。

とにかく人の倍は
努力をしようと思っていた

大工になるために石原建築に内弟子として入ったのが15歳。内弟子として師匠の家族と一緒に暮らしながら働き、必要な技術を教えてもらっていました。

「私が最後の内弟子だったけど、本当に大変で、生活のすべてを手伝わないといけない。朝4時に起きて草刈、牛の世話、庭掃除、6時の朝食後には一番に現場に行つて仕事の準備をする。内弟子になってからの3年間はほとんど雑用で、7年目からようやく一人役として扱ってもらえた」

内弟子としての生活は大変だったと語る森下さんでしたが、後々、雑用の大切さを思い直したそうです。

◀木材について説明する森下さん。材料の目利きは自他ともに認める実力。見ただけで何に使えるか一発でわかるそう。



「雑用はあらゆる事の段取りがわかる。大工仕事だけじゃなく、基礎の穴掘りやコンクリートの配分も全部覚えることができた。他にも山で木を切つて製材する技術、それを通して木の癖を覚えて、木を見る力が養われた。今でも木を見ればどんな材料にすればいいかすぐ分かる」

様々なことを自分の糧として仕事に打ち込んできたからこそ、今の森下さんがあると感心させてくれる話です。それだけでなく、大

森下孝明さん

宮大工

昭和37年に石原建築に内弟子として入社。昭和59年に独立し、森下コンストラクターを創立。平成5年に法人化、有限会社森下コンストラクターとし、代表取締役就く。現在に至るまで、一級とび技能士をはじめ様々な資格を取得。卓越した技術により平成22年に現代の名工の表彰を受け、平成26年11月に黄綬褒章を受章。



工仕事もさせてもらえない雑用時代でも積極的に学ぶことを怠りませんでした。

「職人さんが帰ったあとに、その人がした仕事を見て勉強をしていた。作ったものをくまなく見たり、実際に道具をあてて動きをまねしてみたりした。とにかく人の倍はやろうと思って毎日過ごしていた。しばらくして親父（師匠）から、手ごろな家があるからと初めて任せてもらった物件を、何も聞かずに仕上げたことがあった。親父は何も口出ししなかったが、きつとわからないところを聞いてくると考えていたと思う。だから仕上げたときは、どこで仕事を覚えたんだと驚かれた」



▶大田市の建築関係の事業所が組織する「石州素舞流」の会長でもあります。モデルハウス見学や彼岸市でイベントなどを開催しています。

次の世代に繋いで

ようやく一人前に

これまで努力と研鑽を重ねてきた森下さんですが、まだ自分は半人前だと言います。

「今6人の弟子がいるが、人を育てるといのは物事を教えてわかってもらわないといけないのでとても難しい。自分が覚えるのはわけが違う。私のこれからの目標はこの若い世代を育てていくこと。私が身に付けた技術を彼らが習得して、社会的に自立して、結婚して、技術的にも社会的にも認められたときが、やっと自分を一人前にしてもらえる時だと思ってる。自分のことだけでは半人

せきしゅうすまいる 石州素舞流とは？

平成15年に地元の建築関係事業者により発足した会で、現在15社の会員とアドバイザーで構成されています。石州瓦や地元の木材などの地元の自然素材と匠の技を用い、自然の優しさの中に伝統とデザイン性を兼ね備えた石州素舞流ならではの住宅を提案しています。



有限会社

森下コンストラクター

鳥根県大田市祖式町1068-1
TEL 0854-85-2338



▲「大田市ものづくり名人」として登録いただいております。子どもたちに技術やものづくりの楽しさを伝えてもらっています。

前、次の世代に繋いでその子がきつちりやってくれたのを見てやっとな一人前」

全国的にも宮大工の継承者はそう多くないそうです。技術の伝承、弟子の将来、それらを見届けること、一人前と認めてもらうために森下さんはまだまだ一人倍の努力をつづけられます。



ヘルスツリーリズム 参加してみませんか？

ヘルスツリーリズムは健康ウォーキングや温泉療法などの医学的な根拠に基づき健康回復や維持増進を図る観光旅行のことです。大田市では、一昨年から温泉津温泉や三瓶、石見銀山などで、地域資源を生かしたヘルスツリーリズムが行われています。

温泉津温泉で

早朝ウォーキング

自然と歴史を体感してもらい、健康増進と温泉津の良さをPRしようと、早朝ウォーキングが平成26年12月14日に温泉津温泉街周辺で開催されました。

このイベントは、温泉津温泉旅館組合と温泉津町ヘルスツリーリズム推進協議会が企画したものです。

早朝ウォーキングには、自律神経のバランスを整え血流アップやストレス解消、免疫力の向上、脳の活性化など多くの効果があるといわれています。

当日は、岡山県や山口県などから参加した温泉津温泉宿泊者と地元住民を合わせた23人が、約1時間、温泉津の町並みをウォーキン



▲暑い海水と冷たい海水で交互に足浴を行う参加者(温泉津)

グし、楽しみました。

また、ウォーキング出発前と終了後にICチップを利用したストレスチェックを行うと、ほとんどの参加者のストレス値が減少しました。

今回は試験的な取り組みで、来年度から定期的な開催が予定されています。

一泊二日

「さんべ健康楽座」

温泉津での取り組みの他にも、国民宿舎さんべ荘によつて企画された「さんべ健康楽座」が11月6日から一泊二日で行われました。

用意されたプログラムの一つが、2本のスキーで使用するような専用ポールを使うノルディックウォーキングで、インストラクター

山陰道 仁摩・温泉津道路 全線開通



▲琴ヶ浜第一高架橋からの風景

昨年、仁摩・温泉津道路の内「湯里IC～石見福光IC間(5.9km)」が大田市で初めての高規格道路として開通しました。平成27年3月14日(土)には、残る「仁摩・石見銀山IC～湯里IC間(5.9km)」の開通が予定されており、いよいよ「仁摩・温泉津道路(11.9km)」が全線開通となります。

現在、市内では「仁摩・温泉津道路」のほか、「多伎・朝山道路(9.0km、平成30年度開通予定)」、「朝山・大田道路(6.3km、平成30年度開通予定)」、「大田・静間道路(5.0km)」、「静間・仁摩道路(7.9km)」の各区間で事業が進められており、「福光・浅利間」では事業化の前提となる都市計画決定に向けた手続きが進められています。

山陰道の整備により国道9号通行止め時の代替路の確保、狭いトンネルや急なカーブを回避することにより交通事故の削減につながるだけでなく、輸送や移動時間が短縮され、相互の地域間交流の活発化、物流、産業の活発化、地域経済の活性化が期待されます。

シリーズ石見銀山②^{とよ さか じん じゃ} 豊栄神社 —毛利氏ゆかりのお社—

銀山公園から龍源寺間歩へ至る道の中ほどに建つ豊栄神社には、幕末の慶応3年（1867年）に長州藩より寄進されたことで知られる社殿が残ります。このお社、もとは長安寺^{ちやうあん じ}という寺院のなかに毛利元就^{もうり もとじゆ}を祀る御霊社^{ごりようしや}として建てられたもので、明治3年（1870年）に寺院から神社へとかえられたのでした。

長安寺^{じでん}の寺伝では、元亀2年（1571年）、元就の孫輝元^{てるもと やまぶき}が山吹城内に安置してあった木像に戦火が及ぶことを危惧して移すため、城下の下河原^{しも がわら}へ洞春山長安寺^{どうしゆんざん}を建立したとされます。江戸時代を経て、幕末には、進駐した長州軍が元就の木像が祀られていることに感激し修復を行いました。かつては「銀山百ヶ寺」といわれるほど、石見銀山には数多くの寺院がありました。そのなかの一つである長安寺は、戦国期の毛利氏による建立にはじまり、幕末に再び長州藩の手で復興・再建され



▲土蔵造りの本殿

[問い合わせ]
大田市教育委員会
教育部石見銀山課
☎0854-83-8133



▲拝殿の彫刻

るという運命的な歴史をたどってきました。まさに銀山支配の転機と大きく関わった寺院・神社として、石見銀山の歴史においても重要です。

このような由緒をもつ豊栄神社は、かつては多くの地域住民によって支えられ、大正年間には約500戸の信徒がいました。しかし近年の過疎化により、神社の維持はしだいに困難になりましたが、地元の人々の努力によって守られてきました。

境内には、本殿、拝殿、隨身門や土塀の一部が残ります。かなり傷んだ状態ではありますが、細部の造りや彫刻を眺めると、当時、大森・銀山などで活躍した腕利きの宮大工の仕事であることがわかります。また、本殿が寺院の経蔵のような方形^{ほうけい}の土蔵造りである点に、長安寺の御霊社としての名残も見て取れます。現在は国史跡石見銀山遺跡の構成要素となっている、貴重な文化財です。

豊栄神社を守ろうと、現在地元の皆さんによる保存の機運も高まっています。文化財である社殿を未来に引き継いでいくよう、これからの取り組みが大切となってきます。

「にまちょう琴音ちゃん」^{ことね}に会いに帰ってきてね!!

昨年7月、定住促進と若者の地域参加を目的に、「仁摩で恋活（婚活）」イベントがサンドミュージアムと琴ヶ浜を主会場として行われました。このイベントを企画したのは、「仁摩で恋活実行委員会」。町内事業所の若者と仁摩地域まちづくり委員会で組織され、約1年間の準備作業やイベントの開催を通して幅広いネットワークと一体感が生まれました。同実行委員会では、さらなるステップアップを目指し、地域をもっと元気にしようと、次は『仁摩地域活性化シンボルキャラクター』を作成することになりました。

9月から募集をし、大田市内在住者から44点の応募があり、その中から、仁摩町民の投票により長見和美さん（仁摩町天河内）作品の「にまちょう琴音ちゃん」に決定しました。

今後、「にまちょう琴音ちゃん」を活用して、仁摩町をどんどんPRしていきます。お披露目は3月8日（日）の山陰道仁摩・温泉津道路全線開通記念イベントです。みなさんに会えるのを楽しみに待っています！



プロフィール

住 所：大田市仁摩町馬路
琴ヶ浜

誕生日：11月2日

年 齢：永遠の10歳

♪ 琴は弾けないけど聴くのは大好き♪

♪ 手のひらのハート♡にタッチすると幸運が訪れるかも!? しれないので、みなさんタッチしてくださいね!

おおだ 情報BOX

三瓶山西の原火入れ

3月24日(火)

・三瓶山西の原

三瓶山の防火対策と草原の維持再生を目的に毎年この時期に行われます。大草原に立ち上がる炎は見る者を圧倒し必見です。

※見学自由

【問】大田市役所農林水産課 ☎0854-83-8085

田植え体験ツアー

5月16日(土)

・三瓶町池田

田植えばやしを聞きながらの田植え体験のほか、山菜採り、三瓶温泉などをお楽しみいただけます。

【問】三瓶米づくり体験ツアー実行委員会

☎0854-83-2168 (池田まちづくりセンター内)

みんな待っとなるでな～

春の彼岸市「中日つあん」

3月21日(土)・22日(日)

・大田市駅通りなど

彼岸の縁日に、お寺の境内で物々交換をしたのが「市」の始まりで、400年以上の歴史を持つ大田市の伝統行事です。

植木市など、当日は大田市駅から約1.5kmにわたり、約250の露店が並びます。

【問】大田商工会議所 ☎0854-82-0765

石見グランfond2015

5月10日(日) 予定

・久手海水浴場 (受付、スタート・ゴール会場)

※事前申し込みが必要です

石見地方の絶好のロケーションの「石見山塊往還コース (200km)」などを駆ける、自然と石見の歴史文化を体感するサイクリングイベントです。

【問】NPO法人サイクリストビュー

☎0852-21-3920

大田市の神楽団

(大田市仁摩町)

宅野子ども神楽保存会



宅野子ども神楽は、仁摩町宅野地区に宝暦年間(約270年前)から伝わる伝統芸能で、大田市の無形文化財に指定されています。

この神楽は社中ではなく、宅野地区の小学1年生から中学3年生まで全員で構成され、今年35名の子どもたちで活動しています。奏楽から舞いまで、すべて子どもたちだけで神楽を演じ、伝統芸能を受け継いでいます。

昔、宅野は北前船の寄港地であった関係から伊勢の大神楽や歌舞伎の影響を受けており、獅子舞、三番叟という演目は、関西から取り入れ

られたと伝えられています。

老人ホームや各地でも公演しており、なかでも獅子舞、恵比須は大変喜ばれます。また、かつてはアメリカやモンゴルで海外公演をしたこともあります。

宅野子ども神楽の活動としては、正月三が日は、獅子舞で宅野地区の各家庭を訪問し、夜は、伝統芸能伝承館にて神楽上演を行っています。

毎年、建国記念日(2月11日)には、子ども神楽発表会を開催し、今年で36回目を迎えることになりました。平成24年に結成された子ども神楽OBによる宅野神楽団の指導も受けながら、子どもたちは披露に向けての練習に励んでいます。

今後、子どもたちが少なくなるなかで、どのように継承していくのが課題となっていますが、この伝統芸能をいつまでも続けていきたいと思っています。



ふるさととは今 五十猛のグロ【国指定重要無形民俗文化財】



▲青竹の先端部の葉が大きく揺れ、垂直に立てる作業は難航

年頭、大浦の港で、小正月行事（1月11日～15日）として伝承されている「グロ」が行われました。

グロとは、大浦地区の漁師たちが、木、竹、ササで壁を造りゴザで屋根架けた直径8mほどの円錐状の仮屋をつくり、歳徳神（としとくじん）を迎え、豊漁と無病息災を祈願し、最後の日に住民が持ち寄った正月飾りとともに仮屋を焼き払う行事です。

11日（日）、朝8時、当番にあたった20～80歳代の約40名がグロの組み立てを始めました。最初に、根本の直径が約15cm、長さ約20mのモウソウ竹を2本束ねた「センボクさん（神木）」を、グロ中央に掘った穴へ立てつけます。しかし、この日は、みぞれ混じりの雨と強風が吹き荒れ作業は難航。

「○○、▽&%□…。◎◎、+※◎△…!」、聞き取り不可能な世話役漁師の言葉が飛び、呼応して、うんともすんとも言わず、持ち場のそれぞれがロープを引いたり緩めたりしながら、センボクサンを立ち上げました（写真左）。きっと、「○○さんの持ち場はロープを緩め、◎◎さんの方はロープを

思いっきり引け!」といったような指示でしょう。

荒ぶる海上で同船し漁を営んでいる漁師さんたちだけに通じる簡にして明の指示や合図の一端が垣間見えた瞬間でした。

この後、仮屋を完成させ神迎いの神事を経ると、地元の住民たちが集まり、センボクサンを中心に組まれた3基の囲炉裏端に腰を下ろします。「この火にあたり煙をあび、この火で焼いた餅などを食べるとその年は病気になるよ」との話をしながら、だれかれとなく話しがはずみずみ。

さて、皆さんがお住まいのところには仮屋やとんど（小正月の火祭り行事。いろいろな呼び方あり）が今でも営まれているのでしょうか。そうであるなら、ぜひ参加していただき、残し続けて欲しいものですね。

【参考文献：文化庁国指定文化財等データベース】



▲「餅を焼くとき、壁の竹の枝を折ってその先っぽに餅を刺して焼くので…」とのアドバイスあり

おおだ空き家情報

平成27年1月30日現在

Uターン、Iターンなど定住についてのご相談や空き家情報についてのお問い合わせは、『おおだ定住支援センター』までお願いします。

空き家物件の現地案内もいたします（物件所有者との調節が必要です。必ず事前の連絡をお願いします）。

今回掲載されていない物件もあります。詳しくはお問い合わせください。なお、空き家情報は、定住サイト『どがどが』でご覧いただくことができます。

おおだ定住支援センター〈大田市役所地域振興課定住推進室 ☎0854-83-8029〉に相談ください。



長久町 売買1,800万円

大型スーパー、ホームセンター、バス停も近くにあり日常生活には便利な物件です。



鳥井町 売買380万円

海岸部に位置する明治34年築の古民家住宅です。台所、浴室は改修工事が必要です。



温泉津町 賃貸月1.5万円
売買170万円

UIターン者用の物件で、海岸部に位置する明治43年築の古民家住宅です。

この情報誌は定住促進を目的に発行しています。

発行／大田市役所政策企画部地域振興課定住推進室 TEL:0854-83-8029 FAX:0854-82-5885

〒694-0064 島根県大田市大田町大田口1111番地 E-mail: o-tiiki@iwamigin.jp http://www.city.ohda.lg.jp/

“おおだ”の定住サイト「どがどが」 http://www.teiju-ohda.jp/

どがどが 検索